



2022年3月期 中間決算説明会

株式会社丸順

東証・名証第二部 コード：3422



【本日の報告事項】

1、会社概要

2、2022年3月期中間決算及び
2022年3月期業績予想

3、成長へ向けた取り組みについて

4、ESGの取り組みについて

【本日の報告事項】

1、会社概要

2、2022年3月期中間決算及び 2022年3月期業績予想

3、成長へ向けた取り組みについて

4、ESGの取り組みについて

研究開発

加工・量産の難易度が高い材料の生産技術など次世代で求められる自動車部品の研究開発を推進。

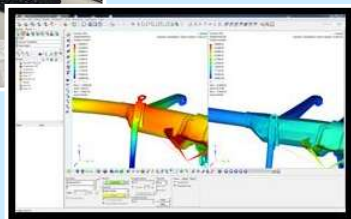
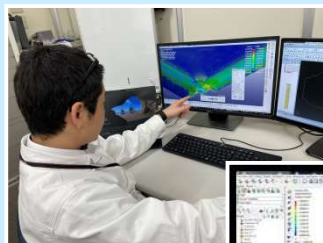
独自技術

CAE
解析技術



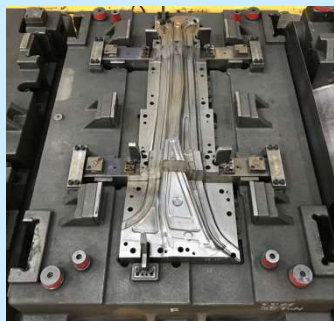
技術深化

創業以来の
ノウハウ



エンジニアリング

「世界最速金型製造」を目指し、全ての生産設備に最も適合する金型・治具・検具を製作⇒金型は得意先でのプレスにて良品を保証。（機械加工だけでなくメンテナンスまで対応）



金型



検具



治具

部品生産

＜ボディ部品事業＞
自動車の軽量化、安全性の向上に寄与するスーパーハイトンの車体骨格を始めとした部品の量産事業



フロントピライナー

センターピラーアウター

＜精密・電動化部品事業＞ HV
・EV向けのバッテリーケースやトランスミッション部品の量産事業



バッテリーケース



バインドバー

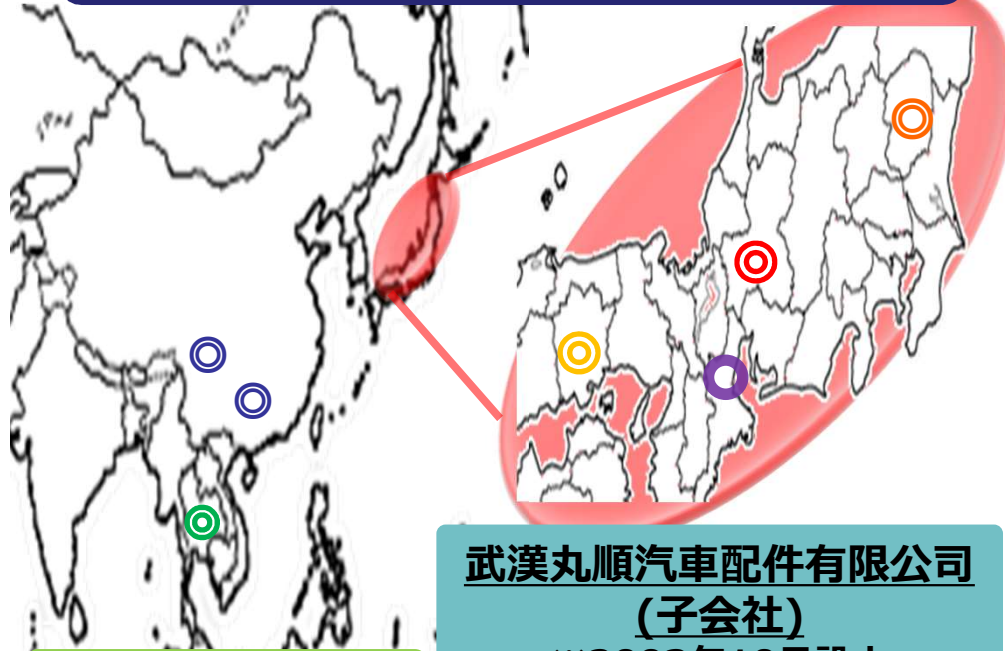


エア・バッグ部品

開発、金型製造から部品量産まで行う、一貫生産体制を整備

1-2.当社の拠点(セグメント)

国内：6拠点（駐在事務所含）
子会社：3社 出資会社：1社



本社・上石津工場
自動車部品、
金型及び治具・検具の製
造、営業・開発部門



浅西工場
自動車部品製造



養老工場
精密プレス部品製造
電動化部品製造
開発部門



鈴鹿工場
自動車部品製造



武漢丸順汽车配件有限公司
(子会社)
※2003年10月設立



バンパー
ビーム



タイ・マルジュン社
(子会社)
※1994年7月設立



広州丸順汽车配件有限公司
(子会社)
※2001年11月設立



ステアリング
ハンガービーム



栃木開発センター
営業・開発部門

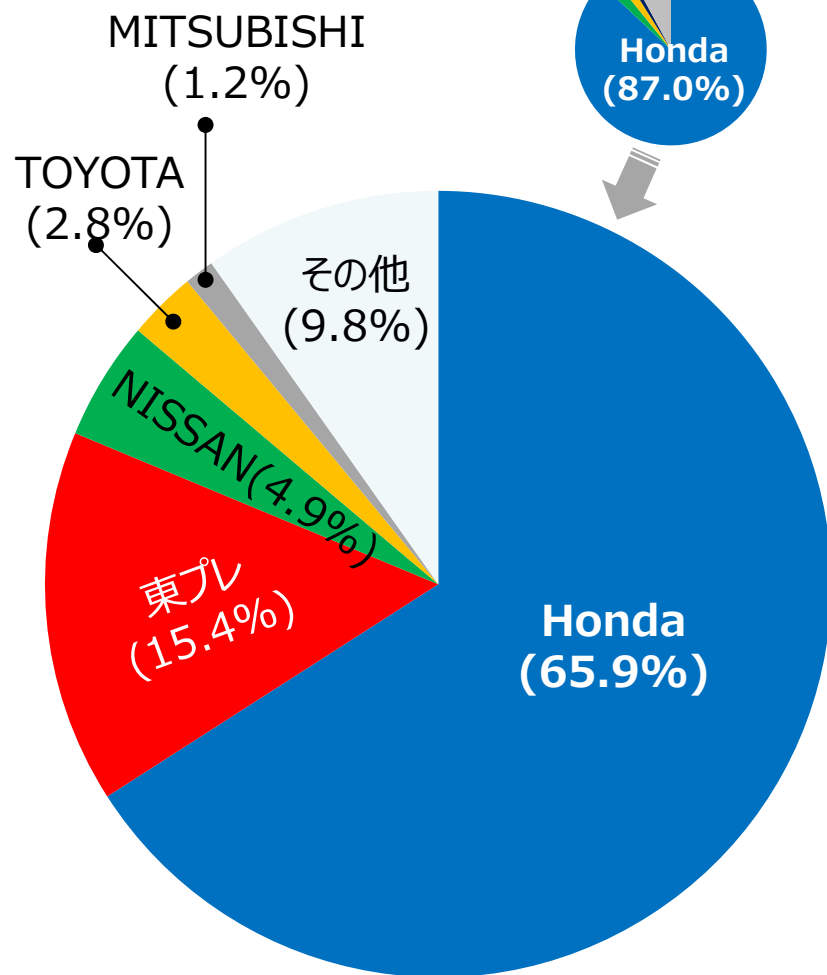


岡山駐在事務所
新規仕入先の開拓
新機種の上り対応

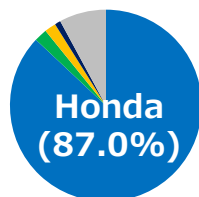


1-3.当社の主要顧客

◇2020年度実績

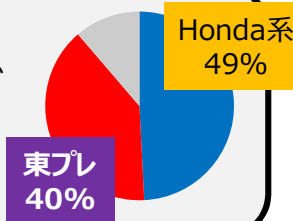


◇2014年度実績



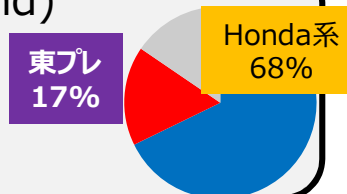
丸順

本田技研工業 / 東プレ
 プライムプラネットエナジー&ソリューションズ
 アイシン精機 / トヨタ車体
 ゲスタンプ / 武蔵精密 / 日産車体



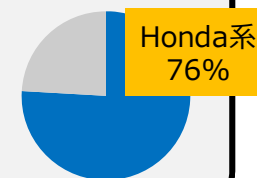
タイ

Honda Automobile (Thailand)
 Thai Honda Manufacturing
 Suzuki Motor (Thailand)
 Marelli (Thailand)



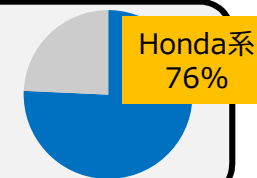
広州

广汽本田汽車 / 東風本田汽車
 广汽三菱汽車
 广汽菲亚特克莱斯勒汽車 (FCA)
 伟巴斯特车顶系统 (Webasto)
 广汽丰田汽車



武漢

東風本田汽車 / 鄭州日産汽車
 法雷奥集团 (Valeo)
 广州小鹏汽車



Hondaを中心としながらも、東プレをはじめ、様々な自動車メーカー、部品メーカーと取引を実施

【本日の報告事項】

1、会社概要

2、2022年3月期中間決算及び
2022年3月期業績予想

3、成長へ向けた取り組みについて

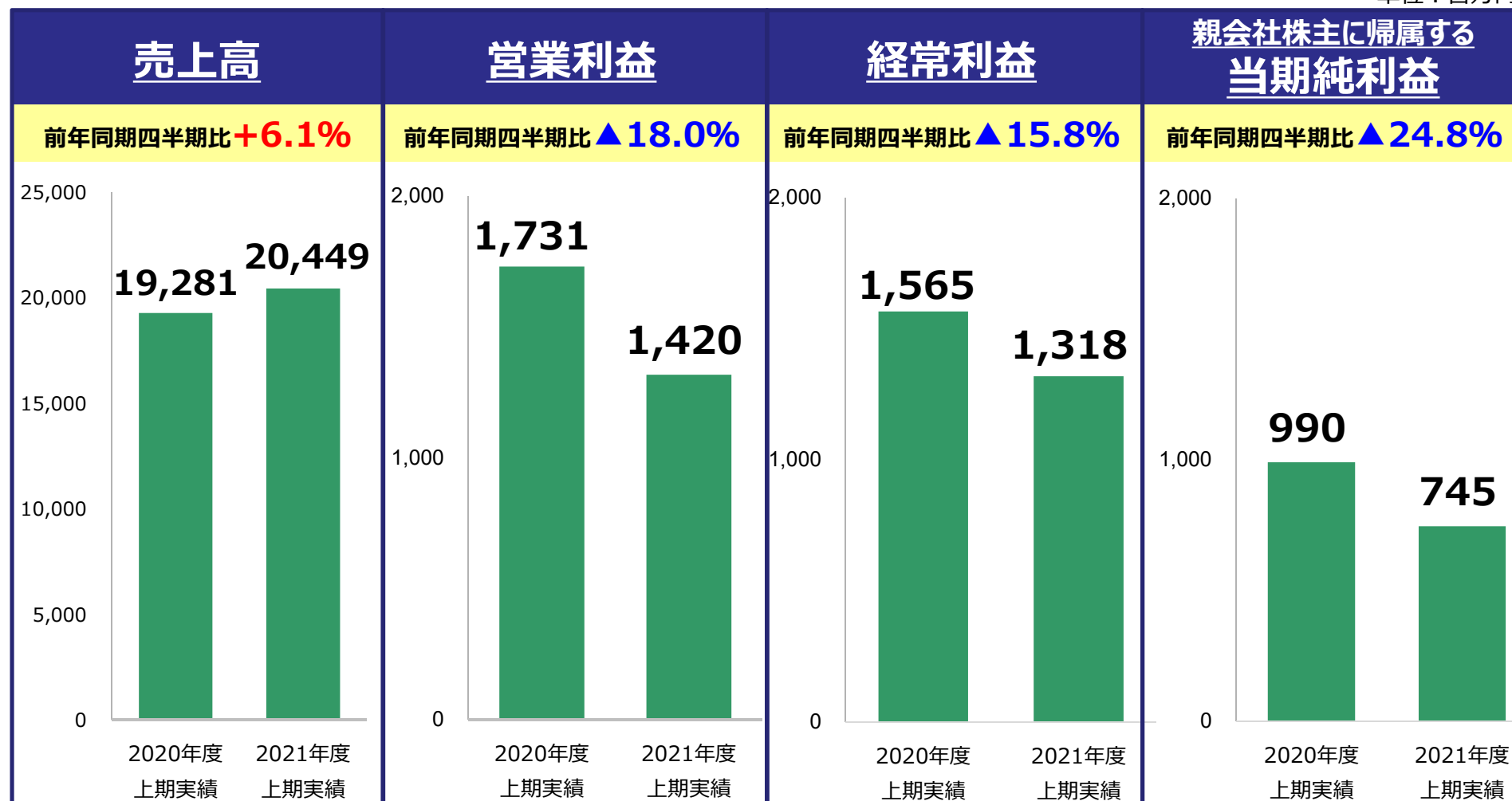
4、ESGの取り組みについて

地域		2020年度 上期実績 (千台)	2021年度 上期実績 (千台)	前期比
日本		332	276	-16.7%
中国	広州	309	373	+20.5%
	武漢	297	414	+39.4%
タイ		63	55	-12.0%
合計		1,002	1,119	+11.7%

※当社関係拠点先台数を記載

2021年度上期は新型コロナウイルス及び半導体供給不足の影響を受け、日本・タイで生産台数減となるも、中国では新型コロナウイルス影響からの回復により増加

2-2.決算サマリー

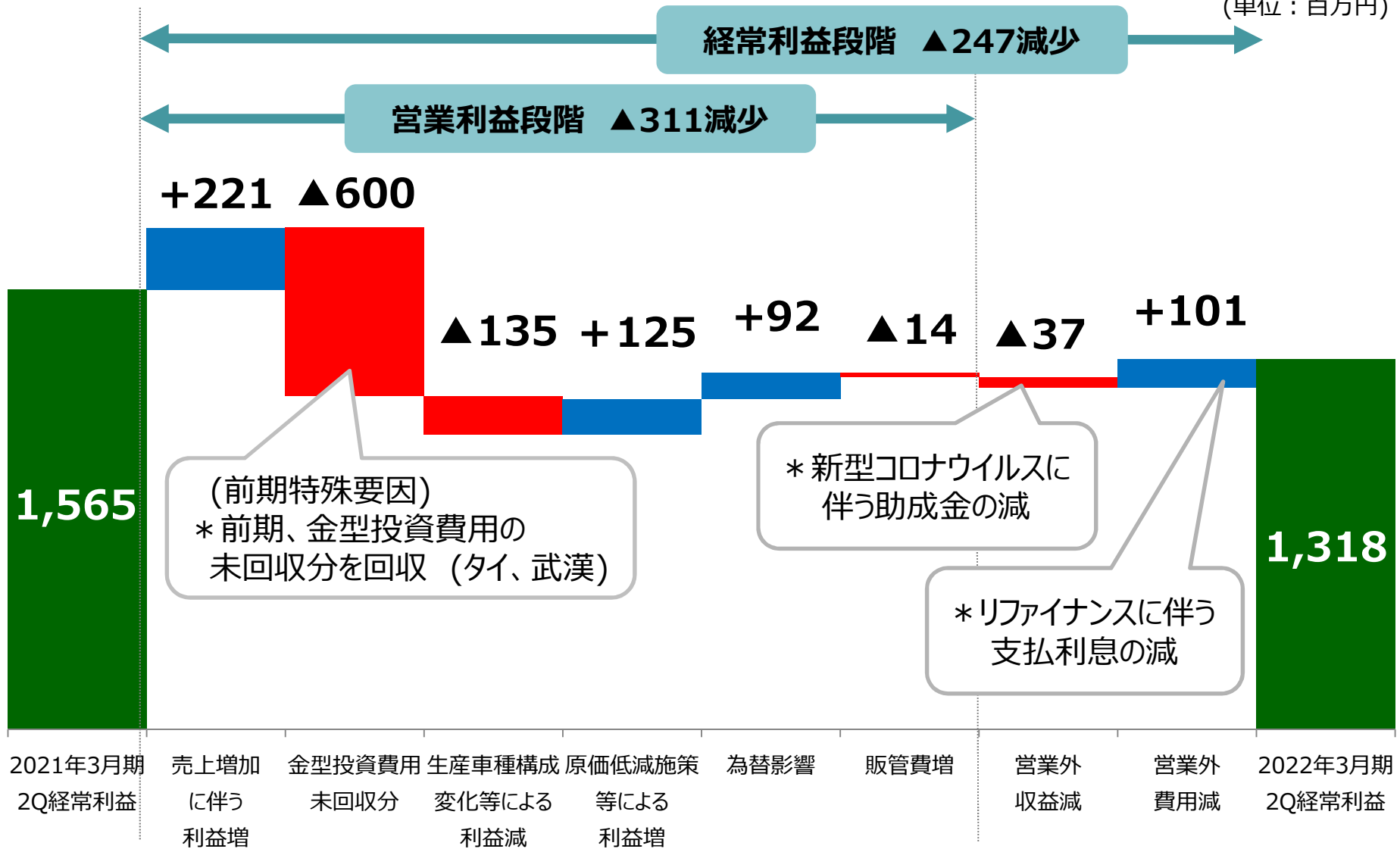


2021年度為替レート
元：16.63 バーツ：3.49 ドル：110.18

売上高は、新型コロナウイルスから回復した中国の増収が大きく寄与し3期振りの増収
利益は、前期特殊要因が影響し全利益段階で減益

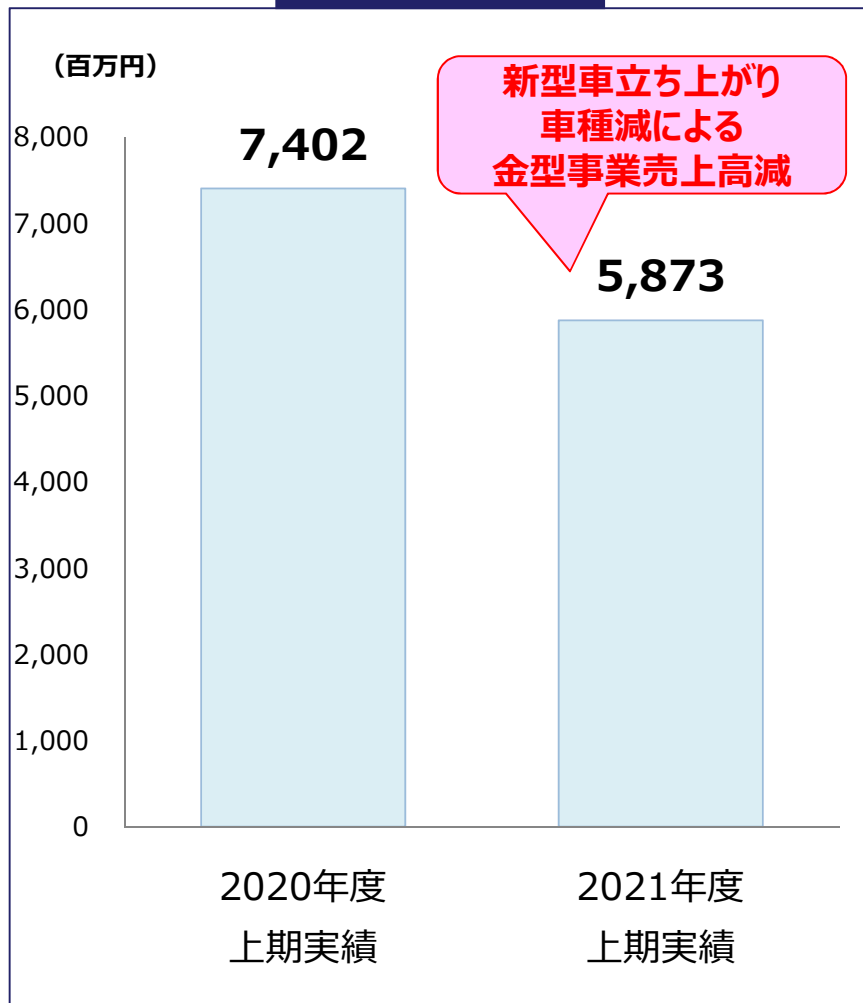
2-3.増減要因

(単位：百万円)

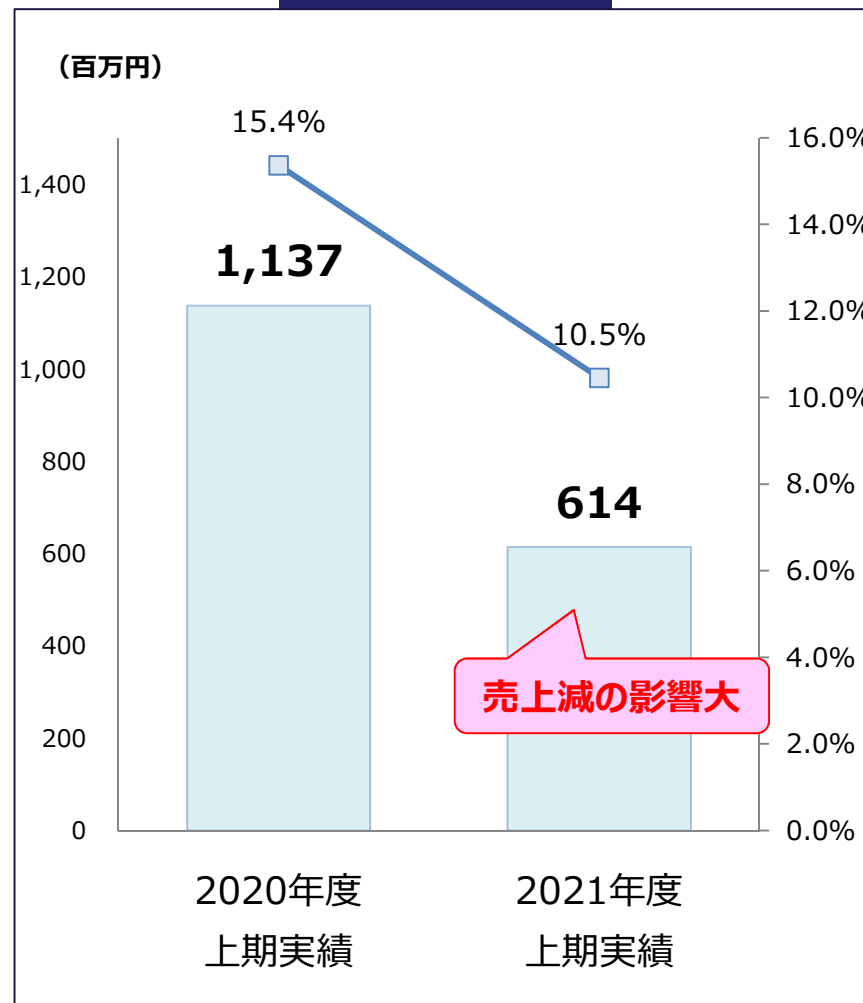


新型コロナウイルスからの回復により生産増加となったものの、前期に金型投資費用の未回収分を回収(特殊要因)した影響が大きく、減益

売上高



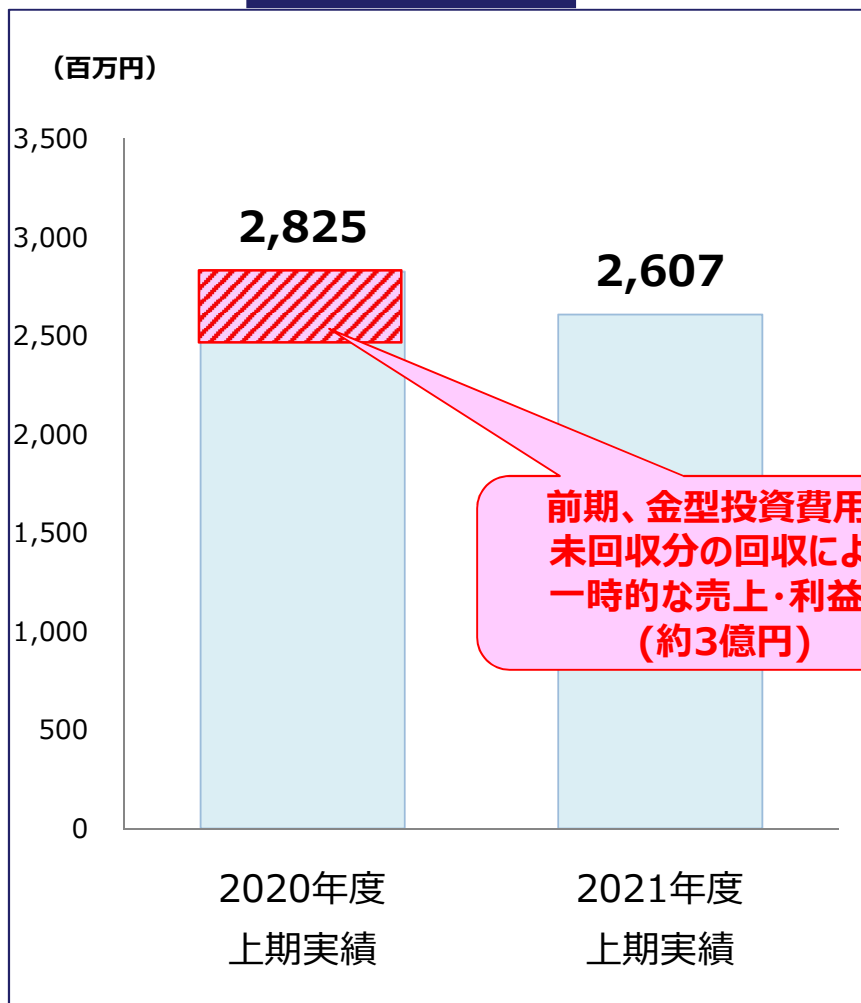
経常利益



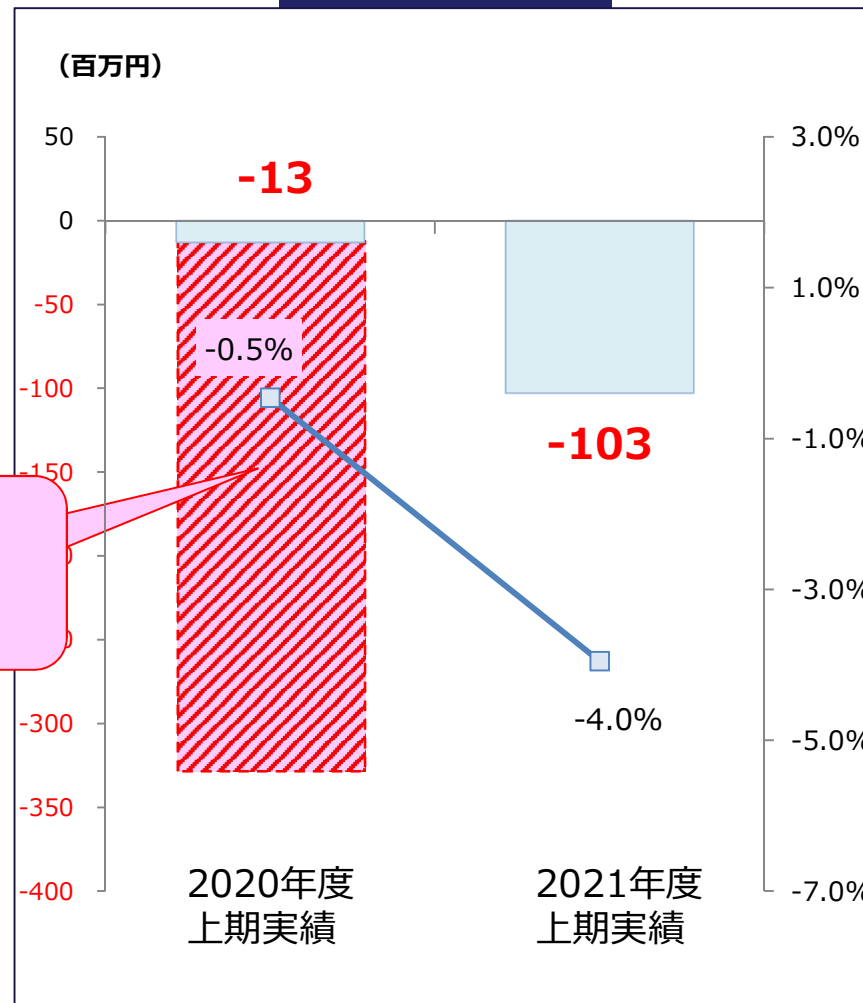
半導体供給不足や東南アジアでの部品供給不足の影響による主要客先の減産及び金型設備等の販売が減少したこと等により、売上高、利益ともに減少

2-4.セグメント (タイ)

売上高

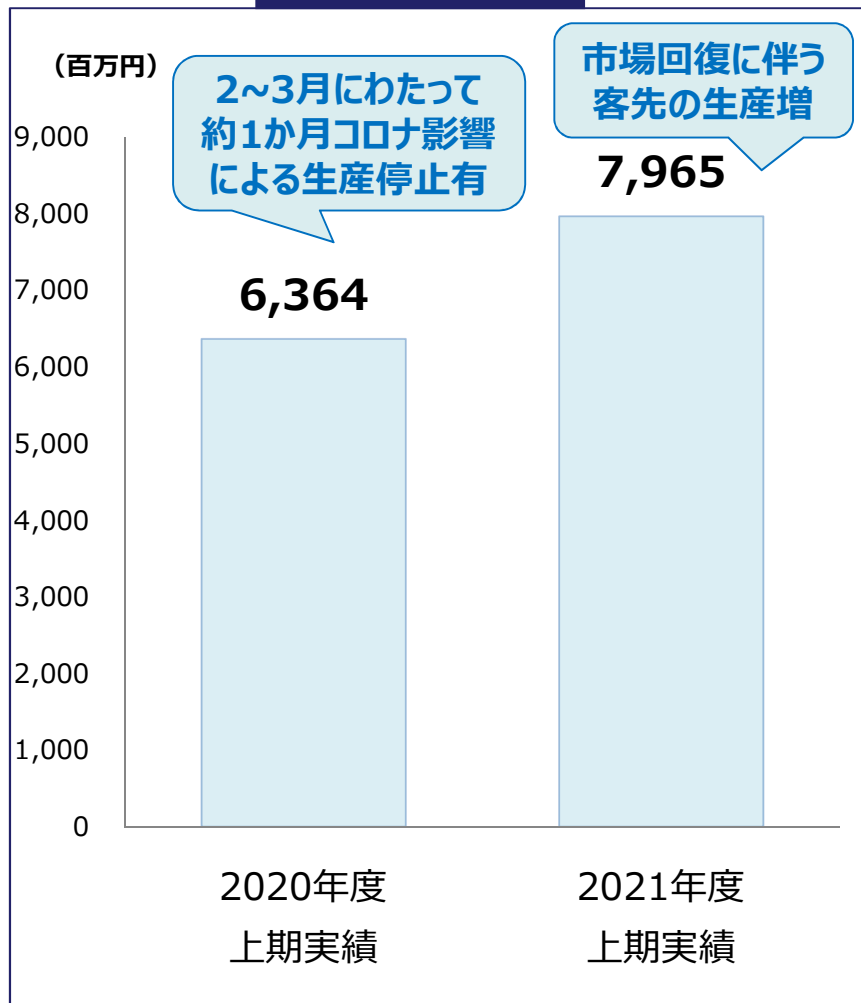


経常利益

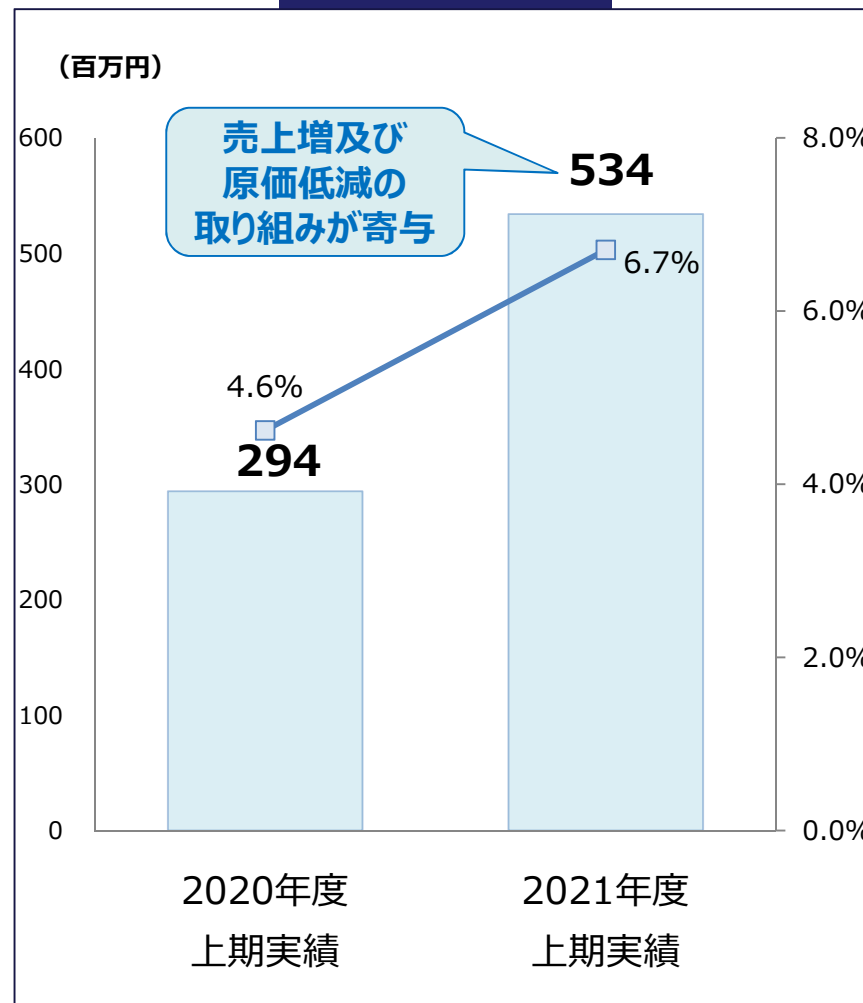


構造改革に伴う労務費等の固定費削減を推進するも、前期金型投資費用の未回収分の回収(特殊要因)により、売上高、利益ともに減少

売上高

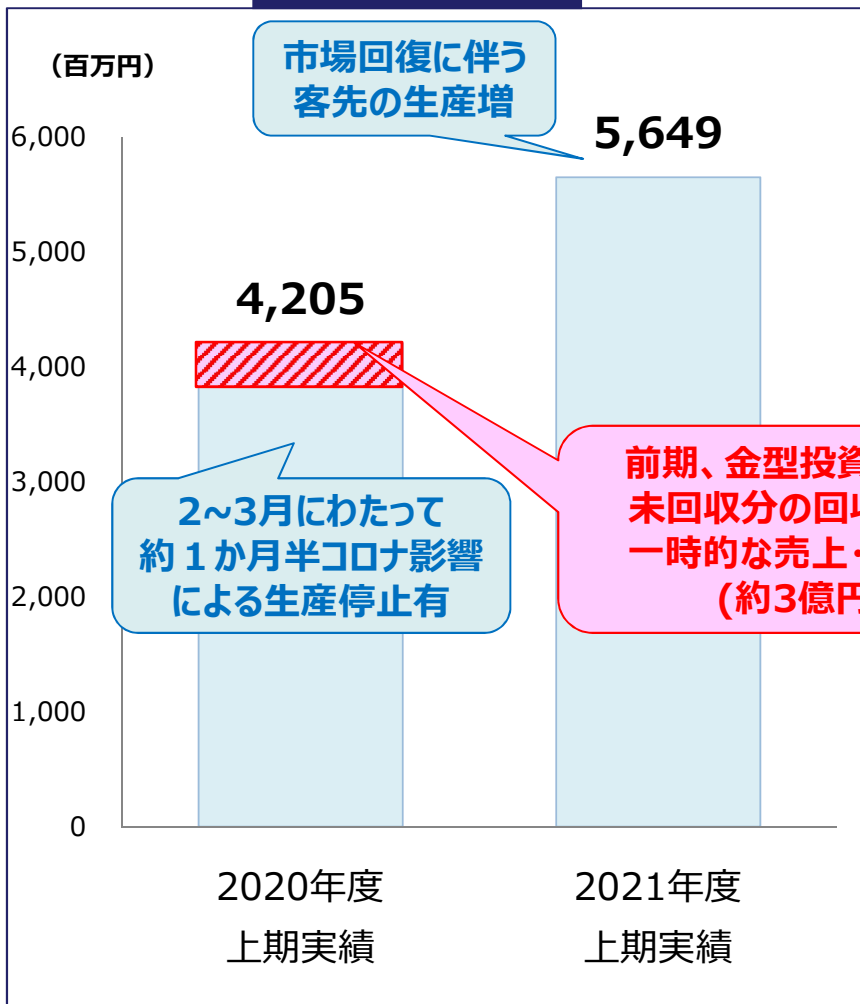


経常利益

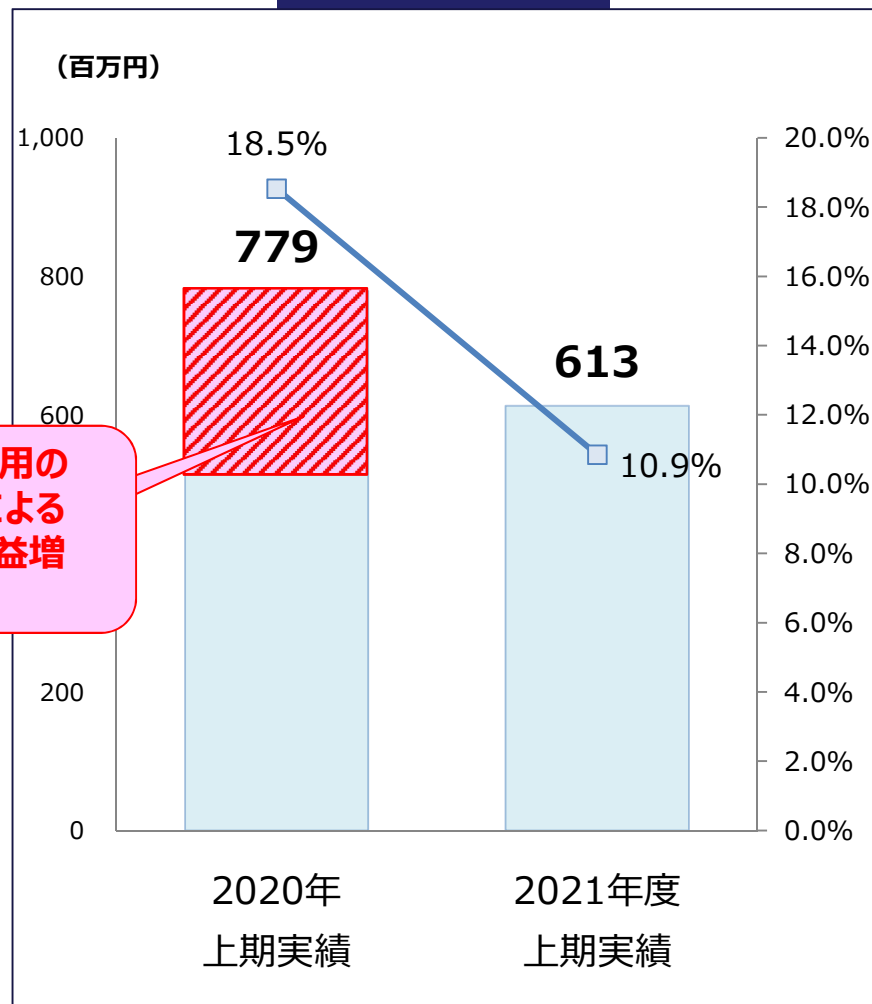


半導体供給不足に伴う主要客先の減産があったものの、コロナ影響からの回復に加え原価低減活動の推進により、売上高、利益ともに増加

売上高



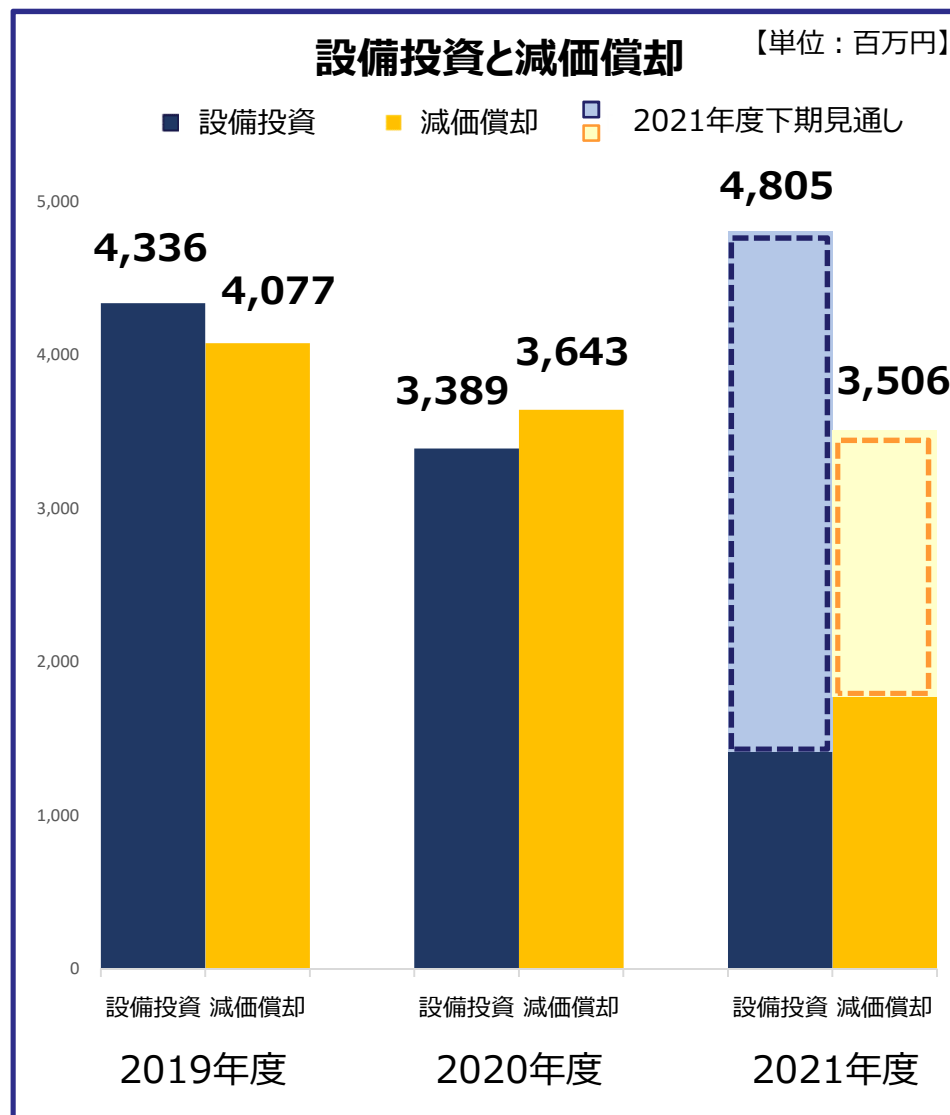
経常利益



コロナ影響からの回復により、売上高は増加
前期金型投資費用の未回収分の回収(特殊要因)により、利益は減少

設備投資と減価償却

【単位：百万円】



◆ 設備投資

【単位：百万円】

	丸順	タイ	広州	武漢	連結合計
2019年実績	2,051	656	1,113	524	4,346
2020年実績	917	502	1,559	409	3,389
2021年上期実績	547	181	196	488	1,413
2021年下期見通し	574	8	1,514	1,297	3,393
2021年見通し	1,121	189	1,710	1,785	4,805

◆ 主な投資

2021年度上期の主な投資

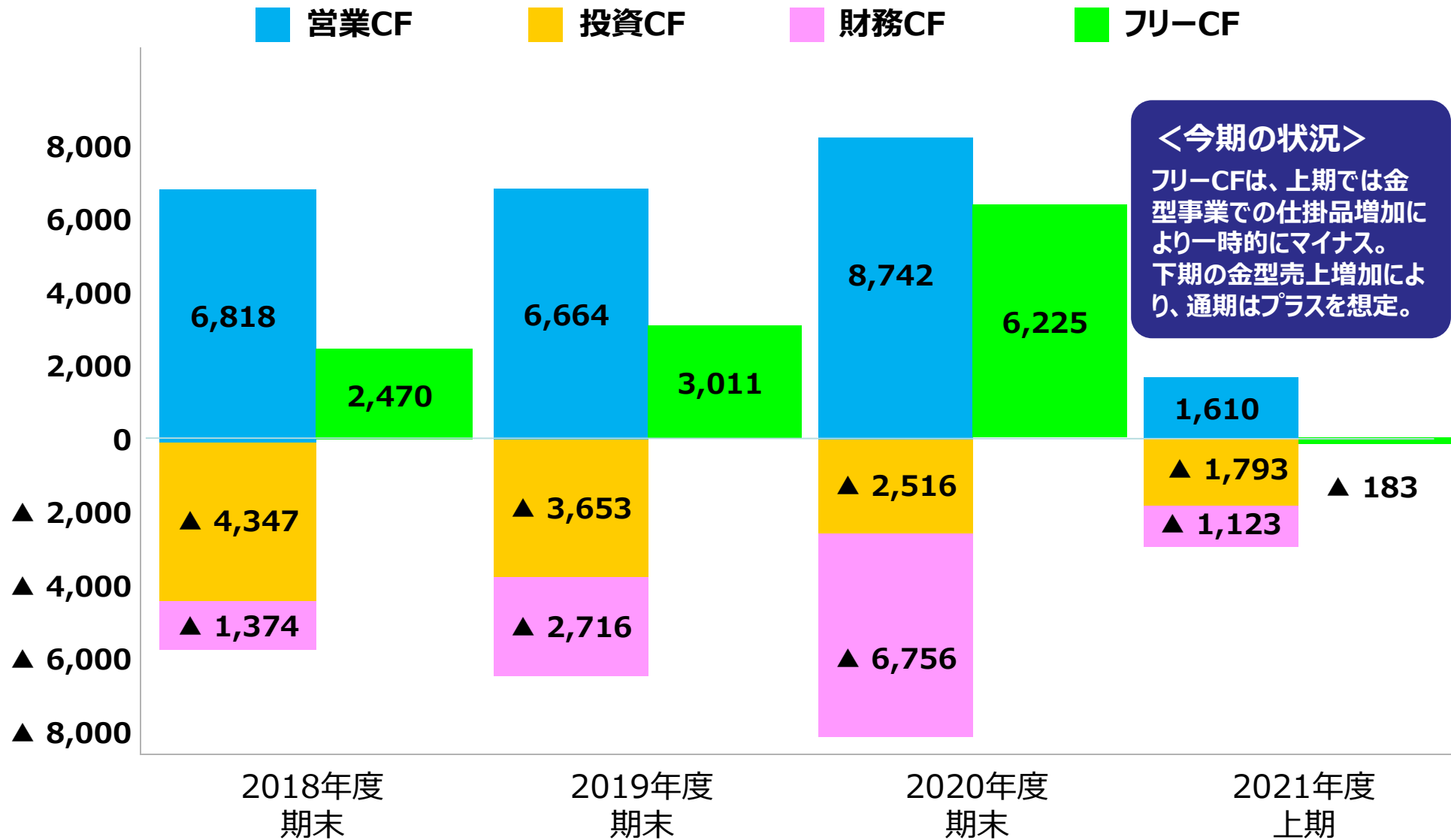
- ・片側スポット設備（丸順）
- ・レーザーブランク設備（丸順）
- ・塗装前洗浄ライン設備（広州）

2021年度下期の主な投資

- ・DX投資（丸順）
- ・600tオーバーホール（タイ）
- ・溶接設備導入（広州・武漢）
- ・新型車種金型（丸順・タイ・広州・武漢）

上期において、財務体質改善のため過度な投資は抑制
DXの推進や生産性の向上等の戦略的な成長投資を推進

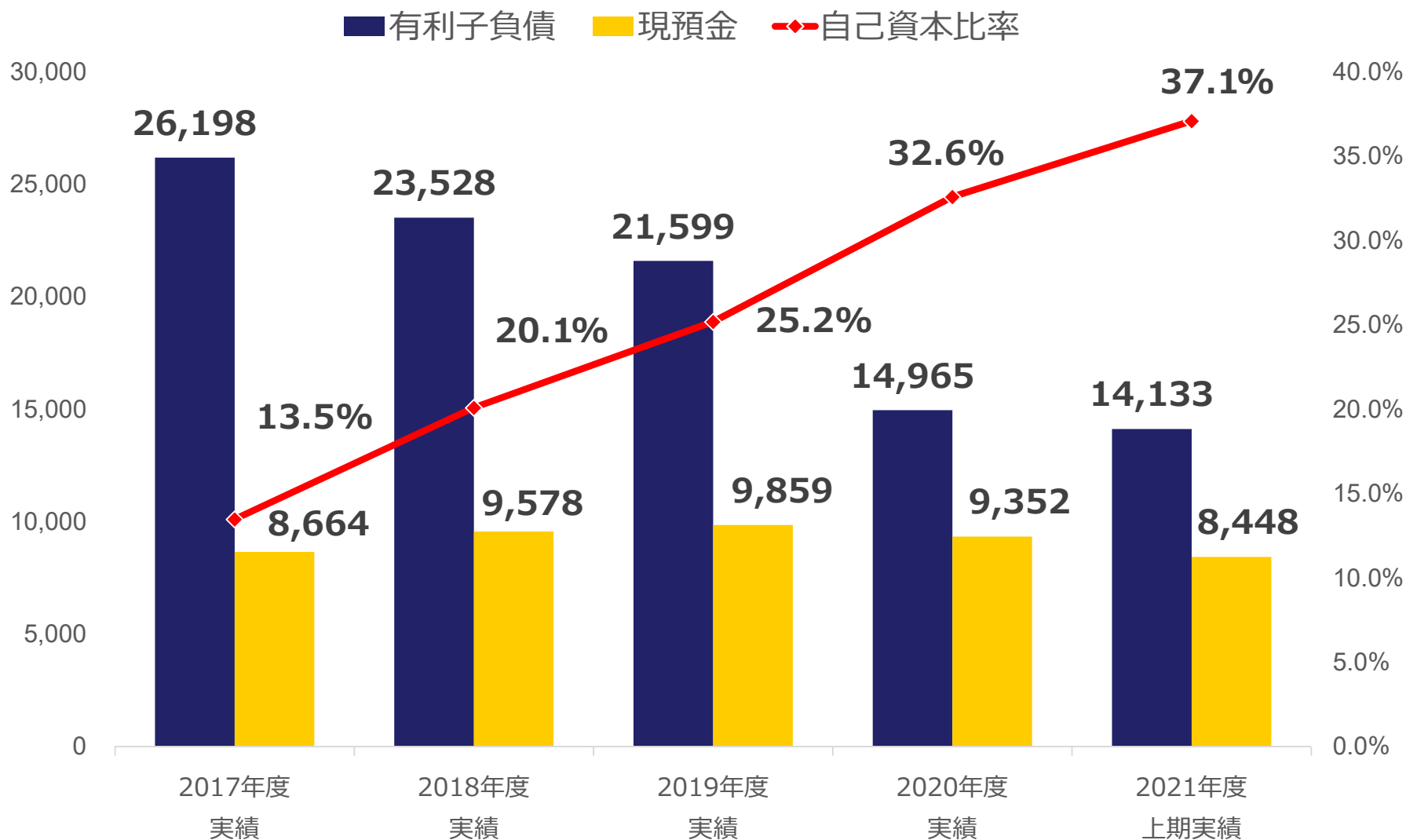
2-6. キャッシュ・フローの推移



<今期の状況>
 フリーCFは、上期では金型事業での仕掛品増加により一時的にマイナス。下期の金型売上増加により、通期はプラスを想定。

中長期5か年計画160億円に対し、フリーCFは合計115億円であり、順調に進捗。
 今期は金型事業での仕掛け増加によりマイナスとなるも、下期の金型売上増加により、通期はプラスを目論む

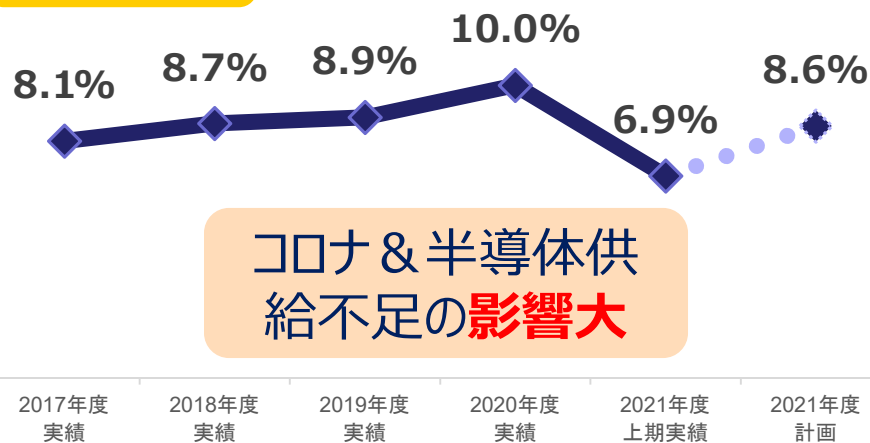
2-7.財務状況



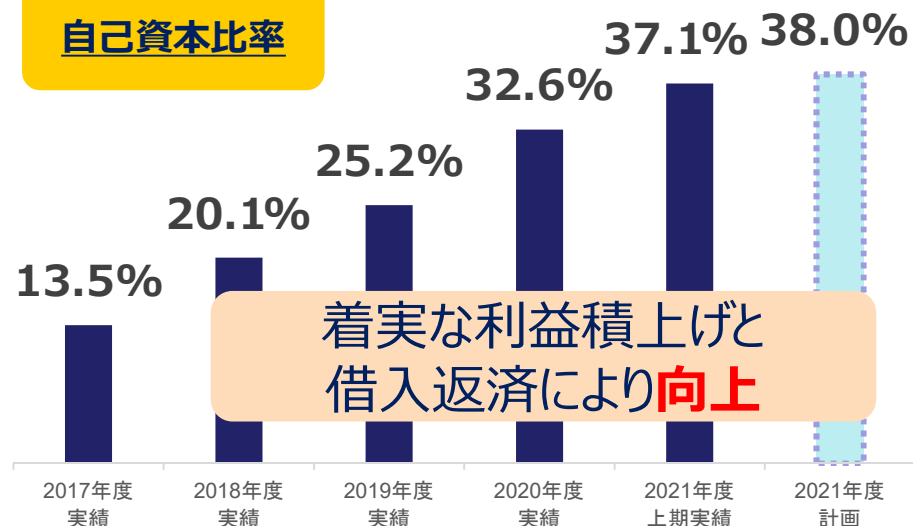
自己資本増強と有利子負債圧縮により、
今上期においても自己資本比率は順調に上昇。

2-8. 中期経営計画進捗状況

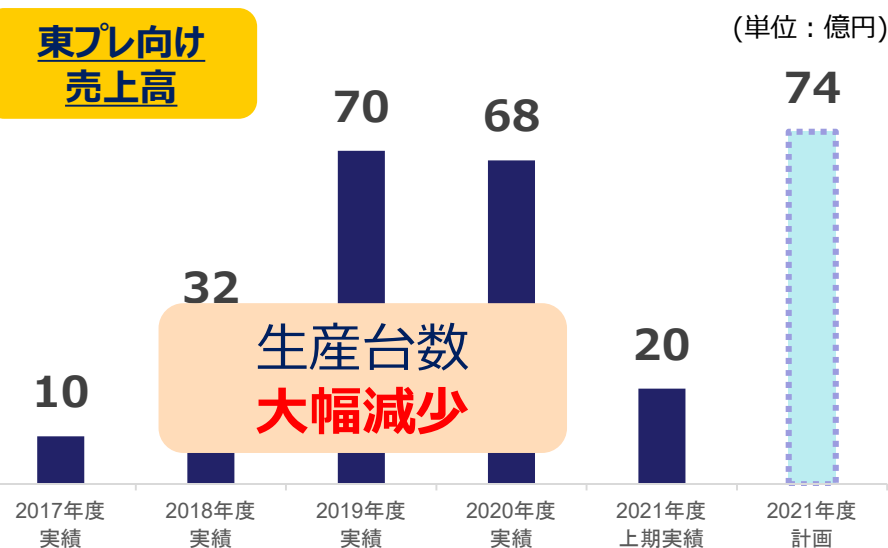
営業利益率



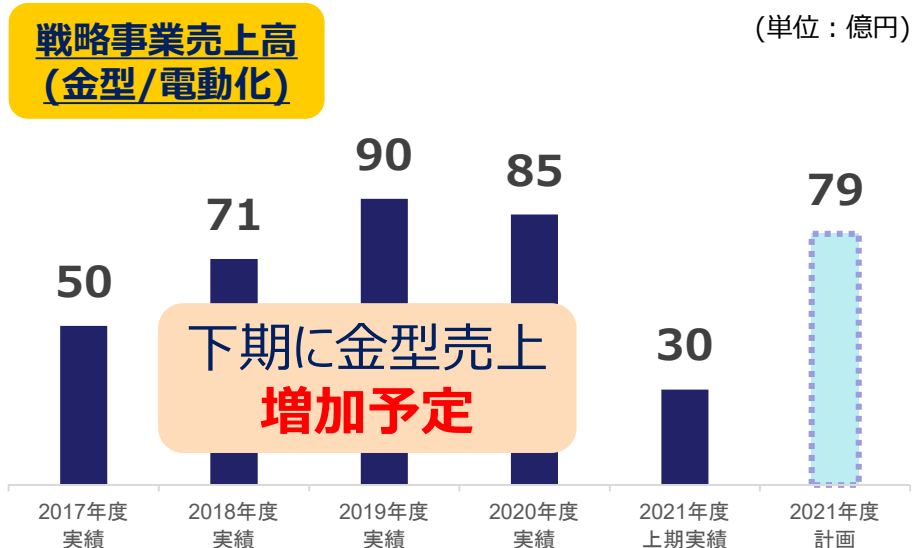
自己資本比率



東プレ向け売上高

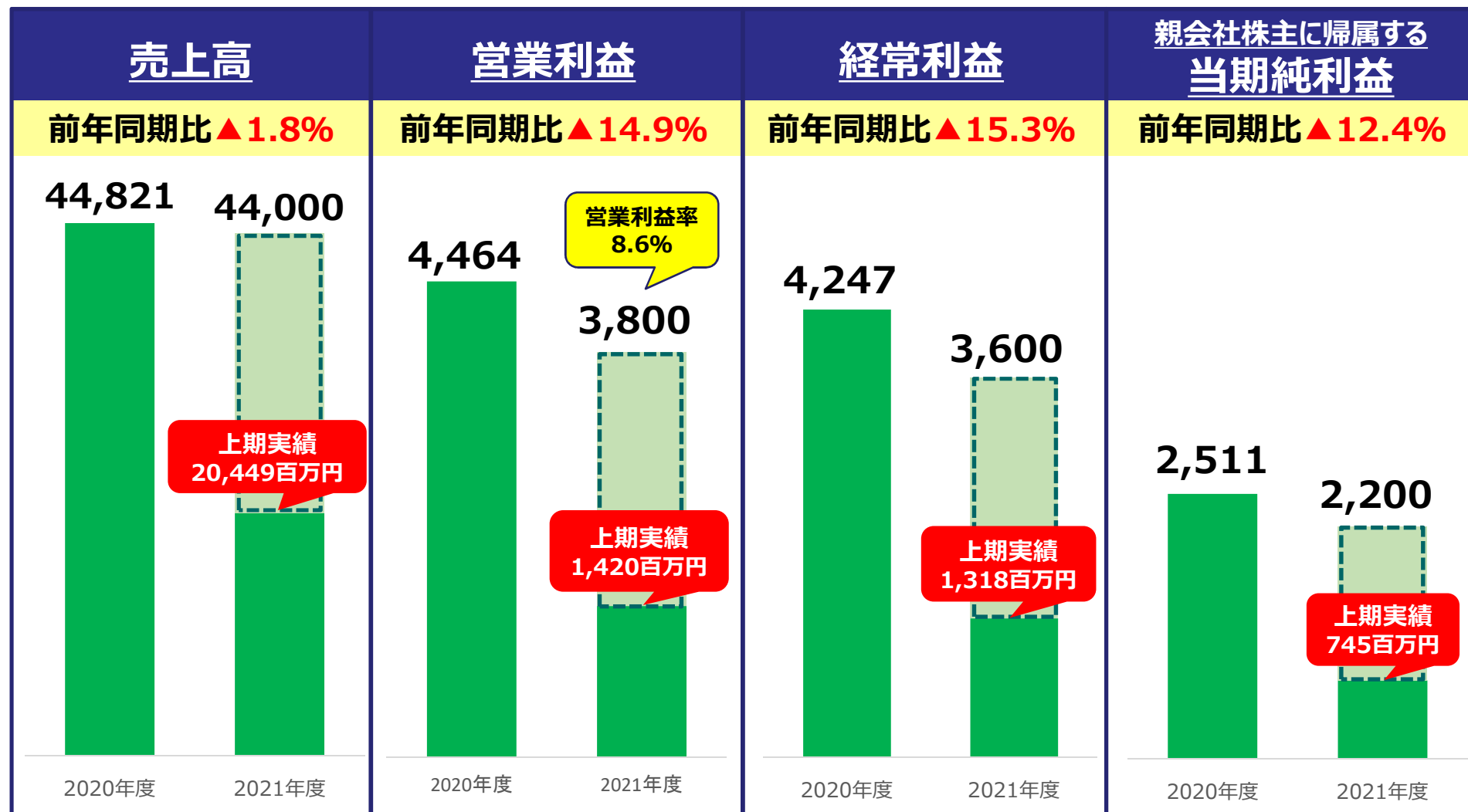


戦略事業売上高 (金型/電動化)



中長期5か年計画において、コロナ・半導体供給不足による生産台数の減少が大きく影響。最重要課題としている財務体質向上は着実に推進

2-9.見通し



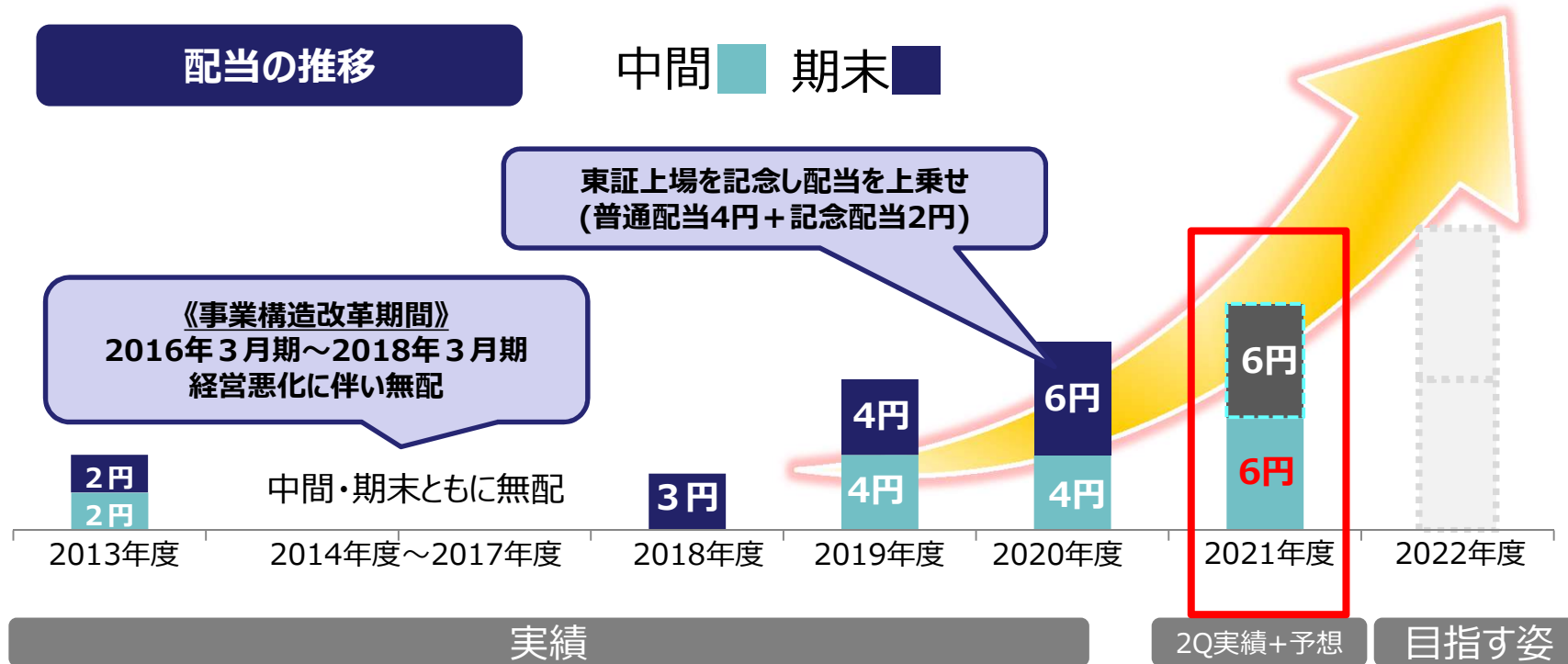
2021年度の当初業績予想に対して上期で上振れとなるも、下期にコロナ及び半導体不足の影響による主要客先の一定期間の減産を想定しており通期予想は据え置き

配当の考え方

現中期については連結自己資本比率40%を目標値とし、財務体質強化に注力。
 次期中期では、配当性向等の具体的な配当の目安を設定していきたい。
 現中期の配当については、世界的な自動車の生産停止等の甚大な変化がない限り、少しずつでも
毎年増配していくことを基本的な考え方としている。
 当期配当につきましては、**中間配当が1株につき6円**とし、**期末配当が1株につき6円**を予定して
 おり、年間配当は1株つき12円を予定しております。

配当の推移

中間 ■ 期末 ■



【本日の報告事項】

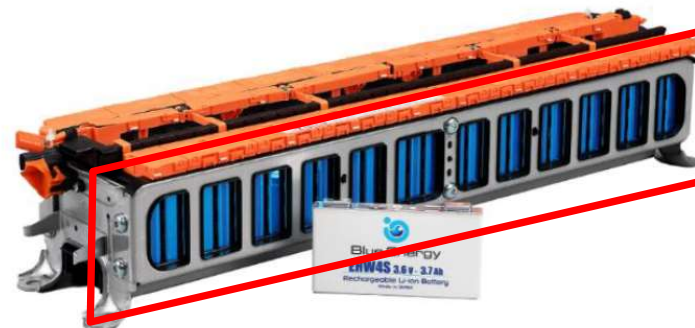
1、会社概要

2、2022年3月期中間決算及び
2022年3月期業績予想

3、成長へ向けた取り組みについて

4、ESGの取り組みについて

受注拠点	丸順（日本）
受注先	株式会社ブルーエナジー 2020年よりトヨタ自動車のハイブリッド用バッテリーモジュールのラダーフレーム部品から取引を開始し、この度継続量産受注。
受注部品	2022年発売の新型車に搭載されるバッテリーモジュールのラダーフレーム部品。 スーパーハイテン材の難成形部品だが、試作タイミングからブルーエナジーとの共同開発を行い、製品化を実現。



【バッテリーモジュールイメージ】
(株)ブルーエナジーHPより



【当社製造類似部品イメージ】

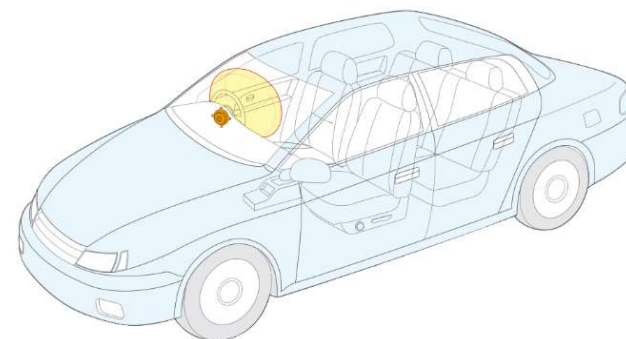
電動化需要の拡大に伴う軽量化の課題について、当社固有のスーパーハイテン加工技術を活かし、更なる電動化受注の拡大を目指す。

受注拠点	広州丸順（中国）
受注先	寧徳時代新能源科技股份有限公司（CATL） 2021年に中国の電動車メーカー广汽埃安新能源汽车有限公司（GAC Aion）の電動車向けバッテリーカバー部品から取引を開始し、この度継続量産受注。
受注部品	自動車のアイドリングストップ時の二次電源に関わる重要な部品であり、電動車需要の拡大に伴い、年間MAX:300千台の生産台数を想定。 これまでの量産実績、技術開発力及びコスト対応力が評価され、2部品目の受注につながった。

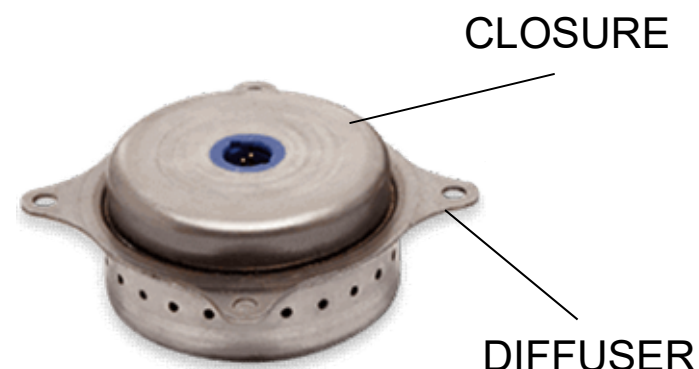
The image shows the logo for CATL (Contemporary Amperex Technology Co., Limited), consisting of the letters 'CATL' in a bold, blue, sans-serif font.

業界トップシェアのCATLより継続量産受注。
グローバルでの電動化需要の取り込みの強化を推進。

受注拠点	タイ丸順 (タイ)
受注先	Daicel Safety Systems (Thailand) CO.,Ltd. (DSST) (株式会社ダイセルの子会社) 過去よりインフレーター部品を受注しており、この度継続量産受注。
受注部品	自動車のエアバックの始動装置であるインフレーターを構成する、精密部品のCLOSURE とDIFFUSER (タイ及びインド市場向け) インドにおけるエアバック装備は運転席は義務化済みだが、2021年12月に助手席の装着が義務化される予定。



【インフレーター設置位置イメージ】
(株)ダイセルHPより



【インフレーター部品イメージ】
(株)ダイセルHPより

東南アジア全域の安全装備部品市場の拡大が見込まれ
今後の更なる受注拡大を目指す。



拠点	丸順（日本）
加工	レーザーブランク加工
内容	<p>ブランキング装置として新たにレーザーブランキングラインを導入</p> <p>本設備導入により部品特性に応じたプレスorレーザーの選択が可能となり、材料の効率的な利用及び少量品の金型レス化等で原価低減と環境貢献を目指す。</p> <p>2021年10月 量産設備として稼働を開始。</p>

レーザーブランキング設備



【適用効果事例】

諸条件によりプレスでは1枚取りとなる例



プレス：材料利用率 60.9%



レーザー：材料利用率 **73.7%**

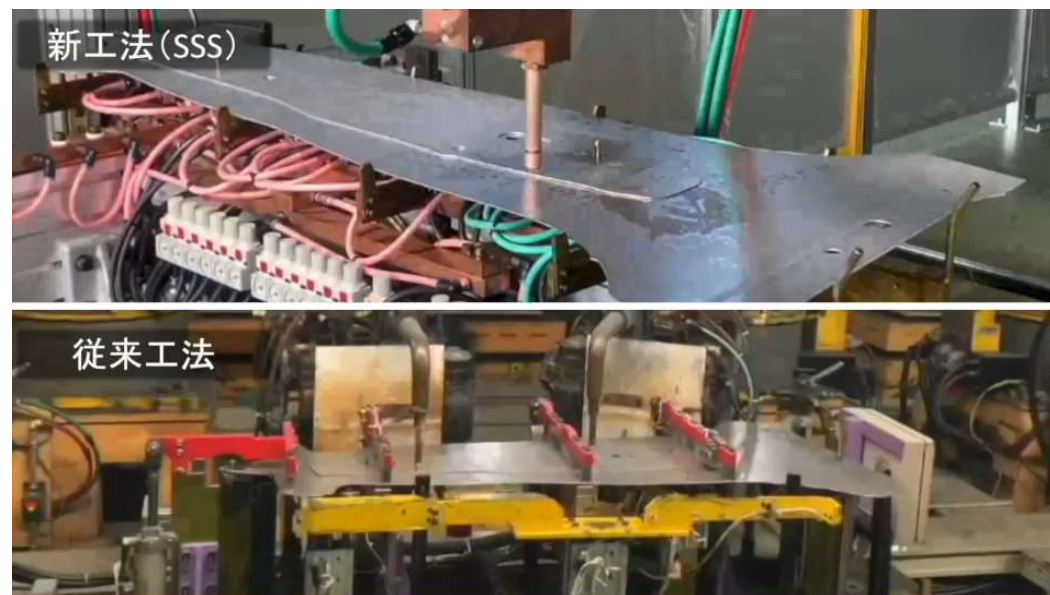
※グレー部分がスクラップ廃棄

自由度の高い材料カット設備の導入により
原価低減と廃材削減による環境貢献を目指す。

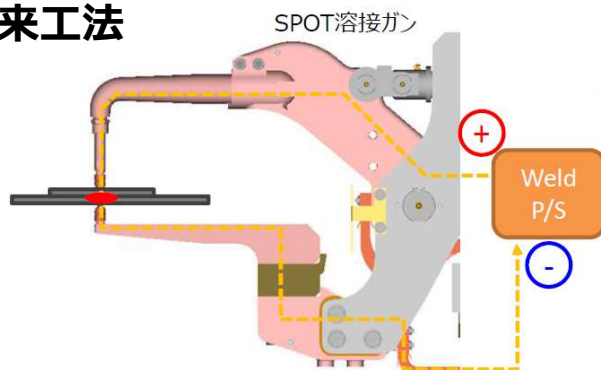


拠点	丸順（日本）
加工	片側スポット溶接加工
内容	客先のホットスタンプ加工に伴うパッチワーク工法に最適化したSPOT溶接工法を開発中。 従来の溶接ガンタイプによる工法比約2倍の高速化を実現。 ロボット台数の削減及び溶接の高速化による原価低減を目指す。

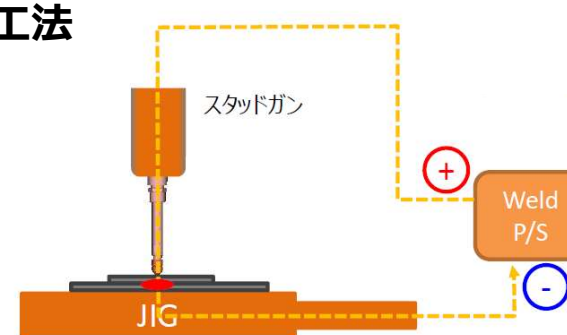
片側SPOT溶接 “SSS(Single Side Spotwelding)”



従来工法



新工法



様々な工法に合わせた原価低減につながる溶接技術を継続的に開発中。

【本日の報告事項】

1、会社概要

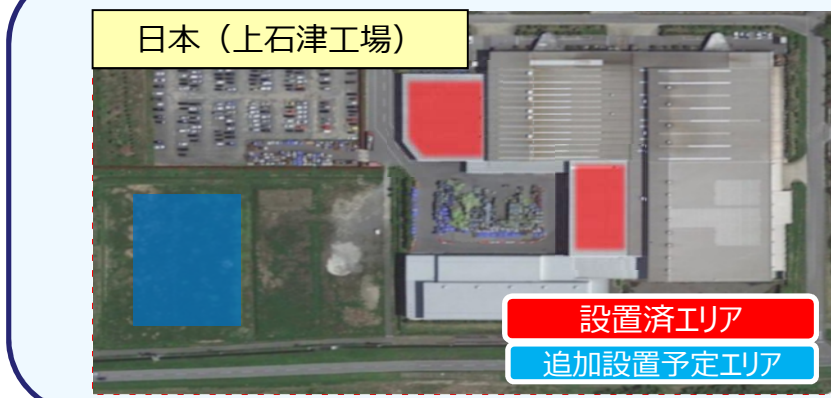
2、2022年3月期中間決算及び
2022年3月期業績予想

3、成長へ向けた取り組みについて

4、ESGの取り組みについて

4-1.タイ丸順 太陽光パネルの設置準備

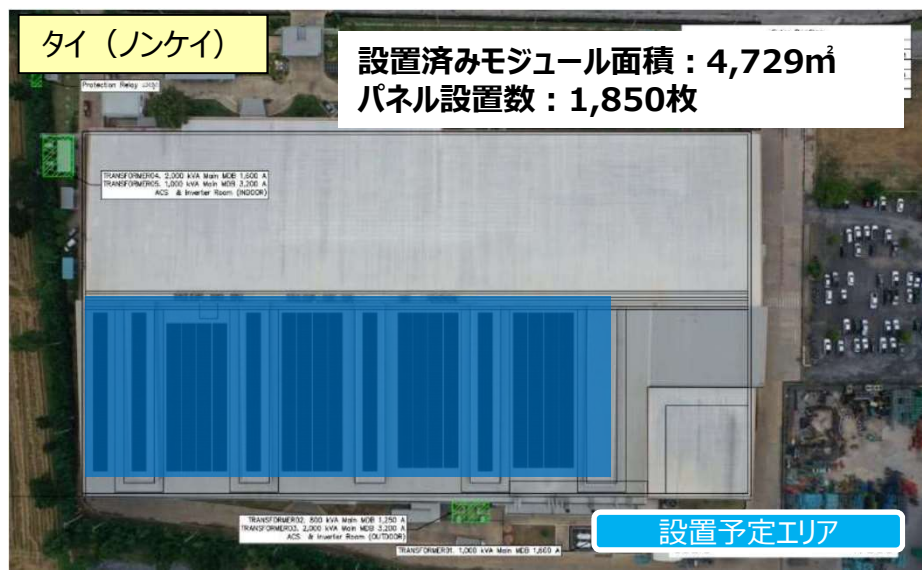
太陽光パネル設置済み拠点



7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに

13 気候変動に
具体的な対策を

タイマルジュン社太陽光パネル設置イメージ



予測発電量：1,237MWh/年
2022年8月より運用開始予定

年間効果目論見

	合計
電力料金削減率	▲4.7%
CO2削減率	▲15.5%

グローバルでの再生可能エネルギーの活用拡大の取り組みにより
更なる環境負荷の軽減に努める

4-1. 輸送効率改善によるCO2排出削減



満載積載
72台車



満載積載
168台車

現行往復4便運行の内 1便を「片道」輸送便に

当期効果 理論値

	施策前	施策後
CO2排出量 [t-CO2]	681	544

CO2排出削減量

137 t-CO2

削減率

20.1 %

往路のパレットを折り畳むことで積載効率UP
「片道」輸送便の運行により施策前よりCO2排出量を約20%削減できる見込み

ご清聴ありがとうございました



当社ウェブサイトにてIR情報をご提供させていただきます



<https://www.marujun.co.jp>

この資料は、株式会社丸順（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。当資料に記載の内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成したものであり、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更する可能性があります。また、将来に関する記述については、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの内容とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。